

発達障害を知る

～悩んだ時にはまず相談！～

発達障害ってなんだろう？

発達障害がある人は、コミュニケーションや対人関係をつくるのが苦手です。また、その行動や態度は「自分勝手」とか「変わった人」、「困った人」と誤解され、敬遠されることも少なくありません。最近の調査では、発達障害の特徴をもつ人はまれな存在ではなく、身近にいることがわかってきました。発達障害の原因はまだよくわかっていませんが、現在では脳機能の障害と考えられていて、その症状は小さい頃から現れています。

それぞれの障害の特性

- 言葉の発達の遅れ
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、こだわり



知的な遅れを伴うこともある

自閉症

広汎性発達障害 (PDD)

アスペルガー症候群

【自閉スペクトラム症: ASD*】

- 基本的に、言葉の発達の遅れはない
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、興味・関心のかたより
- 不器用 (言語発達に比べて)

注意欠陥・多動性障害 (ADHD)

- 不注意 (集中できない)
- 多動・多弁 (じっとしてられない)
- 衝動的に行動する (考えるより先に動く)



【注意欠如・多動症: ADHD*】

学習障害 (LD)

- 「読む」、「書く」、「計算する」などの能力が全体的な知的発達に比べて極端に苦手



【限局性学習症: SLD*】

● それぞれの障害の特性は重なり合うことがあります
 ● このほか、トゥレット症候群や吃音(症)、発達性協調運動障害(不器用さ)なども発達障害に含まれます
 ● 発達障害の人には、感覚の過敏や鈍麻が見られることもあります
 *はDSM-5(精神疾患の診断・統計マニュアル第5版)の診断名
 出典: 発達障害ナビポータル (<https://hattatsu.go.jp/>)

もし発達障害かも?と思ったら...

発達障害がある場合、早い時期から周囲の理解が得られ、能力を伸ばすための療育など必要な支援や環境の調整が行われることが大切です。もし、「発達障害かも?」と気になるときは、まずはお住まいの市町村の窓口にご相談ください。

あなたの地域の相談先はこちら

www.pref.nara.jp/52504.htm



令和6年度県の新たな取り組み

県では、困りごとを抱えた人の支援を充実させるため、相談・受診体制の強化に取り組んでいます。今後も市町村や地域の医療機関など、さまざまな関係機関と連携しながらチームとして支援する体制整備を進めていきます。

主な取り組み

- ▶ 奈良県発達障害者支援センターの相談員を増員!
- ▶ 身近な地域で子どもの発達支援に取り組む市町村を支援!
- ▶ 奈良県総合リハビリテーションセンターの小児科医師を増員!

※診察枠が拡充され、予約から初診までの期間が昨年よりも短縮されました。(令和6年4月末現在)